

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	国語 I B
科目基礎情報					
科目番号	31002		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	制御情報工学科		対象学年	1	
開設期	3rd-Q		週時間数	4	
教科書/教材	『精選現代の国語』『精選言語文化』(明治書院)、「常用漢字の基本演習 改訂版」(東京書籍)、「カラー版新国語便覧」(第一学習社)				
担当教員	薄井 信治, 末裕 昌子				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢文や漢詩の背景と要点を理解でき、短い説明文が書ける(定期試験) ・ 漢文や漢詩、漢語についての質問に答えられる(口頭試問、定期試験) ・ 漢詩を鑑賞し、鑑賞文を指定の形式で書ける(レポート) ・ 訓点や句法を理解できる(定期試験、小テスト) ・ 授業についてのレポートが書ける。(レポート) ・ 常用漢字の読み書きができる。(小テスト) 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目1	口頭試問に9割以上正答できる。	口頭試問に8割以上正答できる。	口頭試問に7割以上正答できる。	口頭試問に5割しか正答できない。	
評価項目2	小テストに8割以上正答できる。	小テストに7割以上正答できる。	小テストに6割以上正答できる。	小テストに5割しか正答できない。	
評価項目3	漢詩の鑑賞文を指定の形式で、かつ説得力ある文章で書ける。	漢詩の鑑賞文を指定の形式と字数で書ける。	漢詩の鑑賞文を指定の形式で書ける。	漢詩の鑑賞文を提出できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	検定教科書を用いて、詩文の読み方に習熟することで、日本語と日本語の文章に対する感覚を養う。授業では音読と訓点、口語訳に重点を置く。詩文の背景の説明を詳しく行う。				
授業の進め方・方法	教科書本文の読解をし、内容理解の確認のために口頭試問を行う。				
注意点	教科書とノートをお忘れなく持って来なければならない。そうしなければ、教科書本文から答えを探す問題や前回ノートに書いたことを答える問題ができず、口頭試問点が減点になる。 漢文は非常に完成度の高い人工言語である。そして訓読漢文は日本人が血肉としてきたものである。訓読することで、省略されることの多い主語や目的語が分かり、品詞や時制が分かるようになる。 日本語は、いつ、どこで、だれが、といったことを曖昧なままで使うことができる言語である。そんな日本語にとって、訓読漢文は外してはならない芯なのである。訓読漢文に親しみ、読めるようになって、日本語の力を向上させて欲しい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 漢文入門①②	漢文を学習する意味を理解できる。訓読を理解し、訓読漢文の読み方を理解できる。	
		2週	故事成語①②	「蛇足」を読んで、訓読漢文の読み方を理解できる。	
		3週	漢詩①②	漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・ 唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。	
		4週	漢詩③ 文章①	漢詩とはどういうものかを理解できる。 ・ 唐詩の読解の仕方を理解し、鑑賞できる。 ・ 鑑賞文の書き方を理解でき、実際に鑑賞文を書くことができる。	
		5週	文章②③	「雑説」を読んで、訓読漢文の読み方を理解できる。 ・ 漢文での評論文の読み方を理解できる。	
		6週	思想①②	「論語」を読み、古人のものの見方や考え方を理解できる。	
		7週	思想③④	「論語」を読み、古人のものの見方や考え方を理解できる。	
		8週	定期試験 試験返却と解説	試験解説により、問題の解き方の理解を深める。	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3
				常用漢字の首訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3

			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	

評価割合

	試験	小テスト	レポート	口頭試問	合計
総合評価割合	60	15	15	10	100
知識の基本的な理解	40	5	5	5	55
思考・推論・創造への適用力	20	10	10	5	45